

たてもの応援団 通信

2019年夏号 (vol.250)



2019年7月22日発行

特定非営利活動法人 文京歴史的建物の活用を考える会 (通称：たてもの応援団)

事務局：東京都文京区千駄木 5-20-18
旧安田楠雄邸庭園内

電話：03-3822-2699 (水・土曜のみ)

メール：info@tatemono-ouendan.org

ウェブ：http://www.tatemono-ouendan.org/

たてもの応援団通信 リニューアル！！

1996年の発足時から通算250号となりました。これまで主に会員向けに月ごとにお送りしていた通信ですが、当初の持ち回り担当を復活し内容の充実を図るために、今号より季刊とし、各回数名で記事を担当していきます。旅の感想や魅力的な街、建物の情報などの投稿も随時募集！（代表メールまでお送りください）また今後はホームページでの掲載や一般配布を通じて、外部へ積極的に活動を広報していきます。

●朗報！東大病院分院跡地の塀のこる

東大病院分院跡地（目白台3丁目、内田祥三設計）の建て替え計画（東大目白台国際宿舍）に伴い、スクラッチタイルを用いた外周塀も取り壊される可能性があったため、応援団から東大資産管理部及び設計チーム宛に塀の保存要望書を提出（2017/12/5付）。（この働きかけは、目白台で区指定・村川家住宅を守る村川夏子さんの声がかきかけでもありました。）新計画では塀の内側も緑地として一般開放される予定。



●藪下通りの石垣 解体の危機

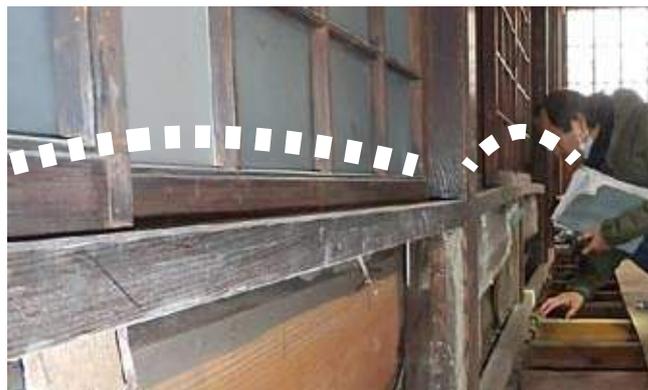
藪下通り沿いの、彫刻家・朝倉響子（朝倉文夫の次女）のアトリエ住居があった土地に、地上5階地下1階のマンション計画あり。風情ある石垣がなくなるかもしれない。地元の声がけで石垣保存の署名運動が行われている。敷地の一角、石垣の上には「汐見坂」と彫られた石碑があり、これは保存を検討しているとのこと。

●旧安田邸 耐震補強工事進捗

昨年度は耐力壁の施工、今年度は復旧が主な作業となる。耐力壁の施工時に一時外した造作材を元に戻し、耐力壁部分に左官仕上げを施す。

7月初旬現在で下塗り工程、最終的には元の壁の土も混ぜて色合わせをした壁に仕上げられる。

その他に中央棟2階北廊下の窓廻り補修も完了。反りやねじれがあった敷居が大工さんの熟練技術で水平に直った。建具も調整し、これで開け閉めも安全にできるようになった。



上：工事前の2階北廊下敷居が太鼓橋のように水平垂直方向にたわんでいた。（白い点線はイメージ）

下：補修後、まっすぐの敷居に。敷居の下に補強材を添えて反りを矯正している。

●旧安田邸サポート倶楽部による公開準備会

旧安田邸サポート倶楽部では、休館中も再公開に向け活動を進めている。月1回程度の準備会、英語ガイド研修、隔月で工事の合間に庭掃除など。

7/9、10には駒込大観音光源寺のほおずき市に参加。旧安田邸の再公開広報をした。

ほおずき市の様子



さらに7月初めには見聞を広げるためのボランティア研修として伊勢を訪れ、そこで活動するNPOと意見交換の場を持った（レポートは後述）。10月には京都の研修ツアーも予定している。

旧安田邸 再公開日決定！ 11/9（土）

11月第3週に工事報告会開催予定。詳細は決まり次第、（公財）日本ナショナルトラストのウェブサイトや東京文化財ウィークパンフレット等でもお知らせします

ボランティア研修ツアー 伊勢市編レポート

< 1日目 二見浦（ふたみがうら） >

7/6 二見浦駅に現地集合。NPO 法人二見浦・賓日館の会 奥野理事長の案内で、町の成り立ちや町並みの変化など説明を受けながら夫婦岩まで歩く。

伊勢市の東に位置する二見は伊勢参りの前に訪れる「みそぎの地」とされ、古くから参拝者で賑わった。明治15年に二見浦が海水浴場第1号に公認、昭和7年には二見浦背後の音無山までロープウェイが開通、山頂に小動物園や見晴台がそろう一大レジャーランドだった。昭和30年代は修学旅行地としても栄えた。明治から昭和にかけて造られた木造旅館街も今は数が減ったが、海岸沿いには木造3階建てがまだいくつか残る。平成に12階建てのホテルが建ったことで、景観への意識が高まり条例も制定された。

茶屋地区の町並み。妻入の木造建築が並ぶ。左奥が12階建てのホテル



夫婦岩。夏至には夫婦岩の間から富士山と日の出が重なる話に加え、その軸線は皇居まで続く（！？）といった興味深い話も聞けた

夫婦岩を後にし、海岸沿いの賓日館へ。賓日館は明治20年に伊勢神宮に参拝する賓客の休憩・宿泊施設として工期3ヶ月（短い！）で建てられた。明治44年に隣接する旅館・二見館に払い下げ、平成11年まで営業、今は国重要文化財となり、伊勢市管理の元、公開運営をNPOで行っている。

唐破風の玄関、海を一望する12畳の大広間など豪華でとにかく広い。一通り見学したあと、NPOの皆さんと交流した。公開や維持管理をするにあたり、互いの悩みやそれに対する工夫、公開する目的など意見交換をした。

賓日館の公開：火曜以外公開、年間3万人来館（うちひな祭りイベントで1万人）、外国人400人ほど

・広さに対してスタッフ2名体制と少ないため、掃除、庭園管理、雨戸開け閉めはそれぞれシルバー人材に、雨どい掃除も専任ボランティアに依頼（管理費で賄う）。



上：賓日館 唐破風の玄関

下：12畳の大広間（昭和5年改修）



・館内の説明は日本語のみ、注意書きはピクトグラムを用いてコンパクトにまとめ、室内に極力物を置かないよう徹底している。

・安田邸のような入館時の荷物預かりや、裾上げ、靴下着用等の注意説明はして



絵でわかるような注意書き。腰の高さで見られる

いない。子連れの入館や撮影目的の人に対しては受付で判断し別途注意書きを手渡すことでやわらかに対応。いずれ文化財を見学する上でのマナー講座や展示もやっていきたい。(無断で商用撮影をしようとする人も少なからずいる。長時間撮影の禁止など規定を設け、それが守れない場合一定期間出入り禁止などのペナルティも設けた。)

・イベント企画は事務局が行いひと月ごとに展示替えをする。広報は市内、町への回覧、NPO 会員への会報とする。地域の人にもリピーターになってもらいたい。人気の雛飾りイベントは、数カ月前からゆっくと部屋毎に飾りつけをし、その経過も公開している。

印象に残ったのは、「文化財ではあるが、旅館だった建物なので、来館者にくつろいでもらいたい」という山本事務局長の言葉だった。人手が少なく館内の見回りや展示品の防犯面は徹底できないが、来館者がゆっくり自由に楽しめることを一番考えている。囲碁将棋の盤（旅館時代の遺物）が並べられた畳の縁側には、年間パスポートを持つ人が時折集まるといふ。見学だけでなく、地域の人が過ごせる場を提供しているのが興味深かった。旧安田邸でも、安田邸だからこそ伝えたいこと、体感してもらいたいことを改めて考えて地域に愛される場にしたい。

夕方、賓日館から伊勢河崎に移動、古民家カフェで夕食をとりそれぞれの宿へ。(山村咲子)

2日目の伊勢神宮レポートは次号にて。

(おまけ) 泊まった宿「星出館」。大正期の建築で、2階の太鼓橋を渡った先にトイレがある。



諏訪大社 (長野県諏訪市)

松塚 昇

6月1~2日、今年度の駒込富士神社富士講の研修旅行は諏訪大社でした。

諏訪大社は諏訪湖の南北に2社ずつ、4ヶ所に鎮座する変わった型の神社です。

上社は本宮と前宮、下社は春宮と秋宮です。今回は上社本宮と、下社秋宮を参拝し、上社本宮では昇殿参拝を行いました。

本宮は鳥居に入ると、前年に使われた一之御柱が立っています。幣拝殿と片拝殿のみ、本殿を持たない諏訪造りの代表的な建物で、本殿は背後の山全体が護神体となっています。屋根は檜皮葺きです。

境内にある6棟の建物は国の重要文化財です。



上社本宮 大鳥居

一乃御柱



上社 幣拝殿

下社秋宮は鳥居に入ると樹齢800年の杉があります。その奥の神楽殿は、国の重要文化財に指定されており、巨大な注連縄が飾られ、出雲大社型の注連縄では日本一長いそうです。

神楽殿の奥にある御社殿は二重楼門造りの拝殿と左片拝殿及び右片拝殿が横に並んでいます。



下社 大鳥居



下社 神楽殿



神楽殿 大注連縄



下社 後社殿 (右同じ)

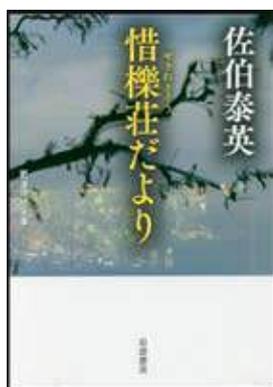


おすすめ本

佐伯泰英

「惜櫟荘だより」

岩波現代文庫 2016



近代数寄屋建築の巨匠、吉田五十八が設計した熱海市の別荘が70年近くの年月を経て取壊しの危機に瀕し、それを時代小説の人気作家、佐伯泰英が私財を投じて買取り、家具、照明をも含めて完全修復した経緯を語る連続エッセイ。創建時の施主は岩波書店創業者の岩波茂雄で、荘名は庭の櫟（くぬぎ）にちなむ。岩波は設計に際して相模湾に臨む立地を最大限に活かすべく厳しい条件をつけ、吉田は見事にその期待に応え、自身も後年の回顧で一番好きな作の一つに挙げたほどの出来栄であった。2006年に開始して5年をかけた修復工事の過程は、現況の実測図作成を始めとして山積する諸問題はさらりと言及するにとどめる一方、吉田と岩波への惜しみない敬愛を繰り返し表明し、大工や左官の職人技もつぶさに書いている。また、著者自身のスペイン暮らしの回顧や交友録を織り交ぜて、一般読者にも読みやすい。

洋間の大きな開口部が歌舞伎座の舞台さながらに前景の庭とその向こうの大海原と天空を切り取るという、その感動は想像するだけで心が震える。文庫版のカラー・グラビアとモノクロ写真からその片鱗が伝わるが、単行本版はビジュアル面でより充実しているのであろうか。

一連の記述の最後に“「修復」するよりも「継承保存」するほうがどれほど大変かということを知っている。”とあり、旧安田楠雄邸の保存公開ボランティアの一人としてうれしかった。（圓佛須美子）

<活動記録 (2019年4～7月) >

- ・4/29 H31年度第1回理事会 出席15名（うち委任による出席3名）
- ・5/31 H31年度総会 出席50名（うち委任による出席：34名）
- ・6/24 例会 出席6名
- ・7/9,10 駒込大観音光源寺 ほおずき市 参加（旧安田邸サポート倶楽部）
- ・7/22 例会 出席4名

<おしらせ>

- ・7/23 旧理化学研究所 見学
- ・8/23 19時～ 例会 会場：千駄木マド（文京区千駄木4-2-18）
- ・島菌家住宅 今年8月も一般公開します 第1、3土曜 11:00～16:00（入館は15:30まで）

たてもの応援団とは

1996年、東京都文京区千駄木にある近代和風住宅・旧安田楠雄邸の保存を願う市民が活動を継続していくために「たてもの応援団」を発足させました。その後旧安田邸の調査、保存の提案、お掃除ボランティア、見学会などの活動を行い、土地450坪と建物は私たちの提案が実って日本ナショナルトラストに寄贈されました。2007年にNPO法人となり、旧安田邸の運営を主に様々な活動を行っています。

一緒に活動してくださる仲間を随時募集しています！（年会費：2000円）

建物の維持・活用等でお悩みの方も、まずは事務局までお気軽にご連絡ください。

年会費・寄付金などの振込先

郵便振替：00140-7-725719

講座名：文京歴史的建物の活用を考える会